

## 【テトスへの手紙 2章】

「キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、  
私たちをすべての不法から贖い出し～ご自分のために  
きよめるためでした。」(2:14)



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:D大重 勝裕

# SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2013.4.14 No.732

## 今年のみ言葉

天よ。耳を傾けよ。私は語ろう。  
地よ。聞け。私の口のことばを。  
私のおしえは、雨のように下り、  
私のことばは、露のようにしたたる。  
若草の上の小雨のように。  
青草の上の夕立のように。

私が主の御名を告げ知らせるのだから、  
栄光を私たちの神に帰せよ。

主は岩。主のみわざは完全。まことに、主の道はみな正しい。  
主は真実の神で、偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。

申命記32：1～4



主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://tlccfrh.astone-blog.jp/>

今教団教派を越えて交わりが成されています。各教会に注がれた恵みがあり、賜物がありますが、それを共有することは非常に大切です。偏った教理に立たず、聖書の健全な教えにふさわしく生活をする中で、更にイエス・キリストを証しでき、神の栄光を表すことが出来ます。毎日の聖書の読み込みを通して、また語られる御言葉を通して、主から正しく聞き、より正しい信仰生活を成してゆけますように！

この章で、「健全な教え」と「慎み深く」という言葉を取り上げてみましょう。

「健全な」という言葉は一般では ①身心が正常に働き、健康であること。また、そのさま。②考え方や行動が偏らず調和がとれていること。また、そのさま。③ 物事が正常に機能して、しっかりした状態にあること。また、そのさま。

しかし聖書で言っている「健全な教え」というのは、罪の問題を語らないでは福音を語ることは出来ませんから、「十字架のイエス・キリストの贖い」をしっかり語りましょう。自分の罪を知らされ、罪が十字架で処理されていること、すなわち悔い改めて神様の前に正しく立っている事を健全といえます。福音の中心は十字架を通して与えられる救いです。

また、「慎み深い」という言葉も何回か出てきますが、「つつしみぶかく心をひきしめて軽はずみな言動をしない。遠慮がちで控えめである。」とありますが、聖書では、肉を喜ばせたり、自分のこだわりではなくて、神が望まれるもの、望まれる事を第一とすることです。すなわち神を中心にお迎えして、聞き従う生活をする事です。「み声に聞き従う第2章」を読みましょう！

老人たち、年取った婦人たち、若い人、奴隷にと勧めが成されています。一つ一つを肉体を持った私達皆が出来るわけではありませんが、しかし出来ない事も感謝して主により頼んで行く時に、不思議とクリアーできてくるのです。「感謝の戦士」として訓練を受けているのはこのためです。早天礼拝を守り、教会生活を通して、私達はつくり変えられていきます。それは神の栄光となっていきます。神様は私達に道徳的な模範的な人物になるようにとされているのではなく、再臨の主をお迎えする時に愛する主にふさわしい者となるように、日々つくり変えて下さっていることを覚えてください。

「キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。」(2：14)

\* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意ください。  
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。